

C O R R E N T E

Centro Culturale Italo-Giapponese

私のイタリア語学習

～イタリア旅行を目標に～

白石 悦徳

2010年3月に定年退職し、34年間の仕事のあ
る生活を終えました。自由に使える時間が増えた
のは大きな喜びでした。その後も囑託として5年
間仕事を続けましたが、現役時代と比較すると時
間にも気持ちにも余裕ができました。退職後の楽
しみはいくつもありましたが、中でも海外旅行は
すぐにでも実現できる楽しみでした。



【2013年 Venezia サンマルコ広場の鐘楼から】

20年ほど前に、塩野七生著『ローマ人の物語』
に出会ってから、ヨーロッパの歴史に興味を持
ちました。塩野作品のほぼ全ての著作を読み、退職
後はヨーロッパ、とくに「ローマ帝国」の遺跡を訪
ねてみたいと思うようになりました。

退職するとすぐに「まずイタリアに行こう」と、旅

行各社のツアー内容を調べました。英語もイタリ
ア語もできない私は、ツアーで「連れて行ってもら
う」しか方法がなかったからです。

旅行各社のイタリア旅行の内容は、1週間から
10日間ほどの旅程で多くの都市を回るものが多く、
移動の時間が長いことや、広場や階段、噴水や
橋などの街並みの見学が多く、既製のパック・ツ
アーでは、自分が望んでいる旅はできないと、残
念ながらパック・ツアーを諦めることにしました。

そんな時に、昇地三郎さんの記事を読みました。
昇地さんは、日本初の知的障碍児通園施設「しい
のみ学園」の創業者で、この時106歳。記事には、
「106歳になった今も、昇地さんは旺盛な学習意
欲を持って勉強を重ねている。65歳から韓国語、
95歳から中国語、100歳からロシア語、101歳か
らポルトガル語、102歳からフランス語を学び、世
界各地に講演に出かける時には、勉強の成果を
生かしてきた…」と。

また、「99歳になった2005年以来、'09年を除
いて毎年1回ずつと世界一周旅行を続けていま
す」という記事に大いに刺激を受けました。

さらに、昇地さんが、妻や3人の子供たちに先
立たれながらも、深い悲しみを乗り越えて生きる、
その前向きな生きざまに深い感動を覚えました。

この時、私は60歳を少し過ぎたところ、昇地さ
んよりもかなり若い。

外国語を学べば、自分が思うように旅行ができると一念発起して、まずイタリア語を勉強することにしました。

私の語学の経験は、中学英語に始まり、フランス語、中国語の学習経験がありますが、独学では身に付いたものにはならず、失敗の連続でした。イタリア旅行を計画してから、テレビ・ラジオのイタリア語講座を聞いたりもしましたが、学習効率が悪いと、まず、イタリア会館を訪ねることにしました。

イタリア語の講座案内をよく見ると、「初級5まで修了することで、イタリアを旅行する際に困らないだけの文法知識と会話能力が身に付きます」と言う一文が目飛び込んできました。

私が求めているものにぴったりです。そこで、この案内の「一文」を信じて受講を決意しました。

初級講座は5講座で、1講座が週1回の授業で10週あり、3ヶ月で終わります。初級講座全て修了には1年3ヶ月かかります。

2012年1月から、職場近くのウイングス京都で開設されている講座に通い始めました。イタリア人の先生や若い受講生と共に学ぶことは、よい学習刺激となりました。

近年、来日外国人が急激に増えました。外国人の日本人観の一つに「英語が話せない」という声が多くあるそうです。ほとんどの日本人は、中学から高校・大学までの長い期間英語を学習しながら英語が喋れないのです。イタリア語講座に通いながら、これらの原因は、学習(input)と表現(output)の比重の違いが大きな問題と感じました。

イタリア語講座では、イタリア人講師とのやり取りや、宿題として出される「イタリア語の日記」があり、outputの場面も多いように思いました。

これまでの私達の語学は学習(input)ばかりであったと感じたのです。言葉はコミュニケーションの手段ですから、人と通じる喜びが感じられないとその効果はとても貧弱なものになると改めて感じたものです。

念願のイタリア旅行も、手が届くところまでもう少しです。初級講座が修了するまで待っていると年齢も上がり、時間ももったいないと考え、初めてのイタリア旅行は、初級講座を受講し始めてす

ぐに計画を立て、初級4の途中の11月に実行しました。

綿密な旅行計画を練り、航空券やホテルなどの全ての手配を自ら行い、妻と友人を誘って、ローマからフィレンツェまでの旅をしました。

初めてのヨーロッパ旅行、それに入門程度のイタリア語で緊張もしましたが、12日の旅程を終えて無事に帰国することができました。これに味を占め、すっかりイタリアにハマってしまいました。



【2015年秋 Assisi を訪問】

以来、2012年から2017年までに、6回のイタリア旅行(全75日間)となりました。

毎回、2週間ほどのゆったりした旅程を組み、街並みや景観だけでなく、多くの文化財の見学ができることも個人旅行の一番の魅力です。

初歩的な語学力なので、トラブルに遭遇すると途端に困ってしまいますが、この程度(初級講座)でもイタリア旅行は十分可能だと思いました。

旅行中もイタリア語研修であるとの考えから、「1日100人に声をかけよう」を目標に、現地の人に声を掛けました。簡単で短い会話でも、実際に使えば、確実に自分のものになります。

旅行者として、現地の人にもものを尋ねることが多くなりますが、「わかっていること」も聞くようにします。むしろ、「わからないこと」よりも「わかっていること」を聞くほうが私のレベルでは勉強になりますし、コミュニケーションが成立している手応えや喜びも感じられます。

旅行中のトラブルや失敗もいろいろとありましたが、辞書を頼りに、イタリア語の表現を何とかひ

ねり出して、切り抜けてきたものです。

今でも印象に残る大きな失敗は、早朝のマルペンサ空港で、帰国便に乗り遅れたことです。搭乗手続きの時間に少し遅れたのです。「troppo tardi」の一言で知らん顔の冷淡なイタリア人のスタッフでした。この時は、「一瞬、目の前真っ暗！」で、大慌てで日本へ飛ぶ飛行機を探して、なんとか帰国したこともありました。

Verona から Bolzano に移動する際、ローカル線の指定されたホームに、定刻に入ってきた列車に乗り込んだら、オーストリア行の国際特急だったということもありました。



【2017年友人たちと Alpe dei Siusi をトレッキング】

また、ローマのメトロに乗った時、共に行動していた方がスリの被害に遭い、盗難届を出しに警察署に行き、ローマ警察の対応に不愉快な思いをしたこともありました。

そして、私たちのように少し高齢になると健康の問題も大きな心配事になりますが、旅行中に同行の友人が転倒して薬局に走ったことありました。

さらに、旅行直前に体調不良で、2回もキャンセル料を支払ったということもありました。

少なからぬ失敗はありますが、個人で旅行をするということは、緊張感も伴います。しかし、ゆったりした旅程で自由な行動ができ、パックツアーにはない魅力と刺激が一杯です。

イタリア語を勉強して自分なりに感じたことがあります。外国語会話は、コミュニケーションの手立てだから必要性がないと身につけにくいことです。

また、コミュニケーションは言葉だけで成立しているものではないということです。初心者でも、簡単な単語と身振り手振りでも、会話は成立します。

大切なことは、積極的に外国人と関わろうとする気持ちが一番大事なのだと思います。

私の学習では、イタリア語講座でコミュニケーションを通して基本を教わったことや、1冊の参考書を短期間に徹底して読み、書いて、反復学習したことが効果的でした。衰えた脳力にとって大切な学習方法は、「集中と継続」です。のんびりならだめではなかなか身に付きません。1つの教材を徹底的に学習することが成果につながります。

年齢とともに記憶力の衰退は避けがたく、単語や構文の暗記がなかなかできません。忘れてもそれ以上の input が大事だということです。

まさに「脳トレ」そのものです。昇地さんは「最良の脳トレ『語学学習』」という言葉を残しておられます。リタイアして始めたイタリア語ですが、まだまだ不十分で入門段階ですが、**イタリアを自由に歩くに必要な旅行会話は、「イタリア会館の約束」通りにできるようになりました。**

何事も、習得することは難事ですが、新しいことに挑戦する気持ちは、毎日の生活に「張り」ができ、とても刺激的なものです。

初歩の会話力でも、現地の人々の親切に触れ、路地の少し奥まで入り込んで、日常生活の一端に触れると、旅の楽しみはより豊かなものになります。



【Cortina d'Ampezzo で知り合いのイタリア人家族と】

イタリアの街並みを見ると、今でも「また旅に出たい」という気持ちが沸々と湧いてきます。

(元当館受講生)

ローマで双子育児⑩

浅田朋子

3ヶ月の長い「イタリア全土移動制限」が徐々に緩和され、ローマでは9月14日から小学校再開が決定し、双子はこのコロナ禍に小学一年生になった。

双子が入学したローマ市内のある公立小学校の入学式当日。感染予防のため、生徒1人に保護者1名のみ構内に入ることが許可された。マスクの着用は6歳以上に義務付けられているので、全員がマスク姿だ。初登校の我が子の姿を携帯やカメラで撮る親たちは「マスクで顔がわからないよ…」とため息をつき少し悲しそうである。

例年ならこの小学校では新入生を上級生たちが校庭で待ち、上級生が手をつないで一年生のクラスまで連れて行き、歌を一緒に歌ったり遊んだり半日ほど交流するらしいのだが、全て中止された。

校庭で校長先生の軽い挨拶があり、そのあと一年Aクラス・Bクラスの担任の先生が順番に生徒を呼び、校内に入って行った。接近は禁止、生徒間で物の受け渡しすらできない厳しい規則の中で始まった子供達の学校生活を思っか、親たちはみな複雑な表情でとぼとぼとマスク姿で帰って行った。

イタリアでは州や市によって公立小学校でも各学校により教材や授業時間、内容にばらつきがあるものの、一年生は主に国語(イタリア語)と算数を重点的に教えるようである。この小学校では、国語(ITALIANO)、算数(MATEMATICA)、英語(INGLESE)、宗教(RELIGIONE)は専門の先生が教える。国語もしくは算数の先生がクラスの担任となり、この2人の先生でその他の教科、理科(SCIENZE)・歴史(STORIA)・地理(GEOGRAFIA)・技術(TECNOLOGIA)・美術(ARTE)・音楽(MUSICA)・体育(SCIENZE MOTORIE)・公民(EDUCAZIONE CIVICA)等を分担しているが、だいたい算数の先生が

理科を、国語の先生が歴史や美術を担当しているようである。宗教(カトリック)の授業は義務ではなく選択制で、選ばなかった生徒は担任の先生とその他の授業をする。



【SCIENZE 理科の授業ノート】

夫曰く「僕の時は担任の先生が全部教えていたし、英語なんてなかった」らしい。イタリアも日本のようにシステムが変わってきているようである。

さて双子はA、Bクラスに別れた。Aクラスは算数の先生が担任で、Bクラスは国語の先生が担任である。幼稚園時代に同じクラスだった双子ロシア戦士も同じ小学校に入学したので、彼らもAとBに別れた。最近、二卵性の双子ロシア戦士はかなり個性に差が出てきた。双子の一人は強面でやんちゃで屈強、喋り方も大人顔負け、もう一人は甘い顔立ちで大人しく優しい。強面戦士は母であるレーナちゃんを愛しすぎて、もう「護衛」できるまでになっている。小学校からの帰り道に「うちの双子の護衛も頼むよ」と義父が真剣な顔で頼んでいた。

レーナちゃんは幼稚園時代から私のママ友である。双子の親としては、同級生に双子を持つ母

親がいるとクラス情報を共有できるのでとても便利である。コロナ禍で授業や時間割が変動的で毎日連絡が保護者の SNS で回ってくるし、メールもチェックしないといけない。親としてはかなりストレスがたまる。こんな時に私たちはお互いに気安く聞けるので「あー、これだけが唯一の救いやな～」と二人で安堵した。

入学式から2週間は(コロナ対策の学校整備のため)半日授業だったが、いよいよ8時30分から16時30分までの授業が本格的に始まった(学校により、午後の授業は選択制になっているところもある)。

最初は赤、青、緑の三冊のノートのみ使う。赤は「国語・歴史・公民・美術」、青は「算数・理科・地理・技術」、緑は「宗教・英語・音楽・体育」で分けられている。先生が「はい！赤の国語のノート出してください！」という、まだ字が読めない子供でもすぐわかるからである。なるほど。



【左が REGOLI、右が BLOCCHI LOGICI】

ノートは1センチ方眼が指定されている。筆記用具に12色の色えんぴつと12色のペン、そして算数用に「BLOCCHI LOGICI」と「REGOLI(日本では算数棒と呼ばれているもの)」という道具を用意する。「BLOCCHI LOGICI」は赤・青・黄色の3色の丸、三角、四角のプラスチック製で同じ大きさの厚みが異なるものが入っており、「REGOLI」は様々な長さの棒が入っている。

Aクラスの先生は50代後半の算数の先生で、見た目は眼鏡をかけ厳しそうな女教師にしか見えないのだが、授業はとても楽しそうである。算数の授業では最初にこの「REGOLI」を使って数字を個数や長さで表して数の概念を教えていき、ノ

ートに数字を書かせていく。先生は算数の授業を「MATELANDIA マテランディア」(MATEMATICA 算数と英語のLANDをかけた造語)と呼び、独特の世界観で子供たちに算数の楽しさを教えているようで、娘はすぐに算数が好きになった。私は算数が苦手だが、最初にこんな先生に習っていたら好きになっていたかもなあと思った。普段、保護者の前ではニコリともしない先生が、「マテランディア」で算数の授業を楽しくしたり、娘のノートに可愛いハートを描いていたりするのを見ると「あの怖そうなおばちゃんがああ・・」と不思議でたまらない。

イタリア語の授業では、最初から「IO SONO A SCUOLA」と書かせていて驚いた。次の日は「SONO A CASA」「SONO ALLO ZOO」、そして3日目は赤ずきんちゃんの文章を写させていた。これを書かせるのにいったいどれくらい時間がかかったのだろう・・。Aも書けない子供にこれをさせる先生の根性と根気に恐れ入った。しかしこれは「字を書くことの意味」や「字を書いて何ができるか」ということを教えているようであった。

そしてしばらくは絵を描き「APE」とか「CANE」とか色を塗りながら楽しそうにやっていたが、「さあ、遊びは終わりです。真剣にやりますよ！！」と言わんばかりにある日を境に本格的な授業になっていった。

まずはA・E・I・O・Uの母音を大文字で書く練習を始め、子音と母音を合わせた音節(SILLABA)で発音と書き方をじっくり学んでいく。例えば「R」は、「REMO, ROMA, RIGA, RANA, MARE, MORE, RUOTA」と書き、「R」の入る音節を見つけ丸をつける。次に「RA, RE, RI, RO, RU」と音節を延々と書かせ覚えさせているようだ。

毎日双子のノートを見ていると、何時間も字を書いて疲れてきたのか、ノートの最後の方は文字が苦しそうにヨタヨタになっている。Bクラスの先生は特に厳しくスパルタだ。泣き出す子供もいるらしい。泣いている子はほとんど男の子で、先生が怖いということもあるが「マンマに会いたい・・」と泣いているようだ。男子はイタリアマンマに特に甘やかされているのか、泣き出す子や身の回りのことが一人でできない子が多い。

双子は「ひらがな」を一通り覚えてただけでまだ本格的に日本語の文法はやっていないが「ママ…、イタリア語の方が難しい」と言い出した。日本語は「ひらがな」、「カタカナ」、「漢字」と途方もない数の文字を覚え文法も複雑だが、小学一年生の段階では音節の仕組みを理解してから言葉を読むイタリア語の授業がより難しく感じ、日本語のように五十音を覚えたらすぐに「ねこ」「くも」などと言葉を読めるようになる方が子供としては面白く簡単に思うのかもしれない。

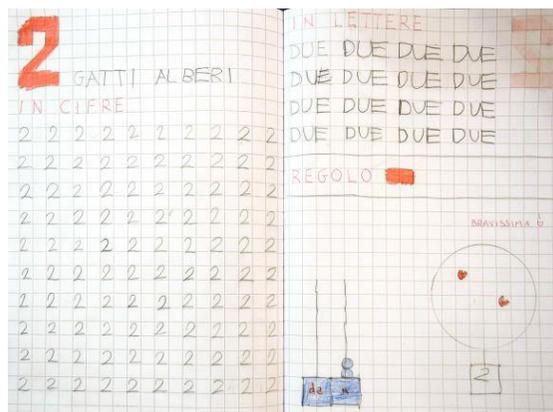
宿題は週末だけだが、授業中に終わらなかった課題は家でやらなければならない。平日は夫も仕事があるので私が見ている。週末に出される宿題は夫の担当だが、「読み」の練習は私も勉強になるので一緒にやっている。



【イタリア語のノート】

「RANA(カエル)」を読ませるときは「ルウ、ア、ヌ、ア」とまずは一文字ごと、次に音節ごと「ラ、ヌア」、そして「ラーナ！」。リズムがよく歌遊びのようで、なかなか楽しい。双子はこれが面白くて普段の会話でも「Mi prendi il P-A-N-E, PA-NE,

PANE!」としゃべっている。双子からの「SILLABE 攻撃」に夫は「勉強だからいいことだけど、なんか…ちょっと疲れる…」と少々迷惑そうである。



【算数のノート 数字を書く授業】

入学してから2ヶ月経ち、悪戦苦闘しながらも少しずつ文字を読めるようになってきた。

双子のイタリア語の授業内容を見ていると「正しく言葉を理解して正確に覚えること」の大切さがよくわかる。理解して正確に文字を書くには「なんとなくやる」程度では絶対にできるようにならない。

初めて文字を習ったときのことはもう覚えていないが、子供が文字を学んでいる大変さを目の当たりにして、「言語」を学ぶことの難しさを痛感した。

子供達の「イタリア語」と「マテランディア」の果てし無く広がる「勉強」の世界は始まったばかり。これからどのように学習していくのか楽しみである。

(元当館受講生)

編集・発行 / (公財) 日本イタリア会館
 〒606-8302 京都市左京区吉田牛の宮町4
 TEL: (075) 761-4356/FAX: (075) 761-4357
 E-mail: centro@italiakaikan.jp
 URL: <http://italiakaikan.jp/>